

我と執着

およそ世の中の人をみる時、誰しも持っている性格に我と執着心があるが、これは兄弟のようなものである。あらゆる紛糾せる問題を観察する場合、容易に解決しないのは、この我と執着によらぬものは、ほとんどない事を発見する。例えば政治家が地位に執着するため、最も良い時期に挂冠すべきところを、時を過ぎて野垂死をするような事があるが、これも我と執着のためである。又実業家等が金銭に執着し利益に執着するため、かえって取引先の嫌忌を買い、取引の円滑を欠き、一時は利益のようでも長い間には不利益となる事が往々ある。また男女関係においても、執着するほうが嫌われるものであり、問題を起こすのも我執が強すぎるからの事は、よくある例である。その他我のために人を苦しめ、自己も苦しむ事や、争いの原因など、誰しも既往を顧みれば肯くはずである。

以上の意味において、信仰の主要目的は我と執着心をとる事である。私はこの事を知ってから、出来るだけ我執を捨てるべく心がけており、その結果として第一自分の心の苦しみが緩和され、何事も結果がよい。ある教えに「取越苦勞と過越苦勞をするな」という事があるが、良い言葉である。

そうして靈界における修行の最大目標は執着をとる事で、執着のとれるに従い地位が向上する事になっている。それについてこういう事がある。靈界においては夫婦同棲する事は、普通はほとんどないのである。それは夫と妻と

の靈的地位が異なっているからで、夫婦同棲は天国か極楽人とならなければ許されない。しかしながら、ある程度修行の出来た者は許されるが、それも一時の間である。その場合、その界の監督神に願って許されるのであるが、許されて夫婦相逢うや懐かしさのあまり相擁するような事は決して許されない。いささかの邪念を起こすや身体が硬直し、自由にならなくなる。そのくらい執着がいけないのである。故に靈界の修行によって全く執着心が除去されるに従って地位は向上し、向上されるに従って夫婦の邂逅も容易になるので、現界といかに違うかが想像されるであろう。そうしてさきに述べたごとく、執着の権化は蛇靈となるのであるから恐るべきである。人靈は蛇靈となる際は、足部から漸次上方へ向かって、相当の年月を経て蛇靈化するもので、私は以前首が人間で身体が蛇という患者を取り扱った事があるが、これは半蛇靈となったものである。

従って信仰を勧める上においても、執念深く説得する事は熱心のようにあるが、結果は良くない。これは信仰の押し売りとなり、神仏を冒瀆する事となるからである。すべて信仰を勧める場合、ちょっと話して相手が乗気になるようなれば話を続けるもよいが、先方にその気のない場合は話を続けるのを差し控え、機の至るを待つべきである。

【昭和 24 年（1949）御発表】